

起業を目指す学生との

# 未来としまミーティング 報告書



## ■目的

本区における起業・スタートアップ支援の推進に向け、未来を担う若い方の想いや考えを施策に反映させるため。

## ■開催日時・場所

日時：令和7年7月14日（月） 18時00分～19時30分

場所：としま産業振興プラザ 6階 第3会議室

## ■テーマ

豊島区に求める起業・スタートアップ支援とは

（事前にアンケートを行い、当日はその回答をもとに自由に意見交換を行いました）

## ■参加者

- ・豊島区内に在学し、起業・スタートアップを目指す学生 6名
- ・大学教授、日本政策金融公庫 4名

## 起業を目指したきっかけ

- 大学の授業の一環で、区の中小規模公園プロジェクトに参加し、地域で頑張っている方に出会う中で興味を抱いた。
- ゼミで取り組んだビジネスプランコンテストがきっかけ。大学の先生と会話する中でアイデアが沸き、やってみたいと思い飛び込んだ。
- コロナ禍に今後の自分の将来を考えた時に、もう少し自由度の高い働き方をしたいと思った。
- 出身地で震災を経験し、まちづくりや地方創生に興味を持ち、非営利組織を設立した。
- 出身地地域では少子高齢化が進み、若者がまちに戻ってこない状況がある。ここで働きたいという企業を地元につくりたい、増やしたいと思った。

## 起業により実現したいこと

- 地域の課題と学生をつなげる。マイナス部分をプラスに変えることができる”変人”のきっかけづくり。
- 日本国内の地域課題、東京都の課題に限らず、世界の課題に向けて目を向けられるような環境整備。
- 人と人を繋げる、人と地域を繋げるというのが自分の大切な軸。地域づくりを通じて、いろいろなもの同士、人同士をつなげていくコミュニティの形成。
- 高齢化が進み後継者がいない地域の魅力を伝え、応援してくれる人を増やし、全国モデルに展開したい。



## 活動をする中で感じる課題

- 「学生なのにすごいね」と子ども扱いされてしまい、具体的な協働につながらない。大人が上で学生が下という形ではなく、相棒のような関係性で対等に活動したい。
- いざ踏み出してみると、次の一步は何をしたらよいか、今後何でつまづく可能性があるのか分からない。
- 同じような志を持つ同年代とあまり出会えない。一人孤独で悩みを共有することができず、ストレス。
- 他区のスタートアップピッチに参加したが、9割方が男性だった。
- 自分の頭だけで考えていると、物事を俯瞰的に見ることができず、行き詰ってしまう。
- バイト代と奨学金だけで東京に一人暮らししていると、まずは生活に精一杯で、起業はあらか心身ともに余裕がない状況。
- 学校内だけでなく地域に飛び出して活動したいが、金銭的に厳しい。
- 交流会では、学生と社会人経験者は比較され、経験豊富な社会人の方ばかりに注目がいつてしまい、うまく交流できない。
- 誰を頼ればよいか分からない。どんな税理士が良いのか、行政のどの部署に行けばいいのか、それを調べるだけでも時間がかかり困っている。

## 区に求める支援とは

### <相談窓口>

- 自主的にやりたいことを発散できる場と、行き詰った時にすぐに質問し情報を得られる環境。
- 起業の実装に向けて、登記の流れや確定申告などについて専門家にワンストップで相談できる窓口。
- 多言語対応での伴走支援。
- ステップアップするための壁打ちに、付きっきりで対応してくれるメンター。

### <交流の場>

- 豊島区内や自分の周りにいる成功した人は、どうして今その立場にいるのか、なぜ成し遂げられているのかということを知る機会が欲しい。
- 起業家同士の勉強会に、起業を目指す人も気軽に参加し経験談を聴くなど、交流できる場が欲しい。
- 悩みを共有できる同世代が欲しい。
- 特色を持たせるという意味で、女性の起業にフォーカスするのも良いのではないかと。日本の社会は一度辞めてしまうとなかなか正社員には戻れない。若者に限らず、中高年女性もスモール起業したいと考えている人は多いのでは。
- 豊島区は外国人も多く、20代~40代が多い一方高齢者も多い。包摂性の高いインクルーシブな区だと思う。年代やジェンダー関係なく、色々な方とラウンドテーブルで話せる場があると良い。
- 社会人経験者に負い目を感じることなく、学生でも対等に参加・交流できる起業家交流会。

### <施設・拠点>

- 池袋などで格安で借りられるシェアオフィスやコワーキングスペース。
- 新しい施設を創らなくても、既存のコワーキングスペースを使って、官民連携で伴走支援や懇親会を定期的で開催してはどうか。

### <経済的支援>

- 家賃などの経済的支援、区内温浴施設のサービス券などがあたらリフレッシュできて嬉しい。

### <その他>

- 地域で頑張っている人達の姿を見られるような環境作りや、戻ってきてここで働きたいというような地域に愛着を持ってもらえるような教育が大切。
- JA スタートアップの豊島区版(サイト上でのスタートアップ企業の応援・認定)。



## その他ご意見

- 豊島区で起業に向いている業種・業態は、アニメを起点としたカルチャーの発信や飲食店とのコラボ。
- 身近な起業を目指せるのが豊島区らしさではないか。
- 池袋でのイベント開催時は、飲食店難民が多い。日陰で食事を持ち込み、気軽に食べられる場所が欲しい。
- 池袋に法人をたくさん誘致する。
- 立教大学の近くに、スタートアップが入居する建物と、交流・憩いの場になるような緑が広がる公園があれば良い。
- 参加者を学生に限定した空き家活用プロジェクトがあったらぜひ参加したい。
- 起業に関する情報は、口コミや大学からの紹介だと安心できる。SNSではなくポスターなどが良い。



## コメンテーターからのご意見

- 起業はしたいが何で起業をすればいいか明確になっていない学生は多い。そこにフォーカスした支援のやり方もある。
- 学生たち若者は、起業しても1回では成功せず、失敗しながら2回3回と起業していく人もいる。
- 現実の課題に直面し、アイデアはあるが起業は進められないという会社は多い。そのアイデアを持つ人と学生をつなげることができれば面白い。
- 日本政策金融公庫で取り扱っている創業融資は、年代別・業種別ともに前年比で増加している。これは、働き方として起業もひとつの選択肢になっていることの表れだろう。
- 知を共有する場を設けるということを、豊島区と連携しながら積極的に進めていきたい。

## 10年後の夢

- 地元に戻り、事情を抱え就労が困難な人が自分らしく働ける会社をつくる。自分たちの居場所、理想の居場所をつくりたい。
- 地方と東京の多拠点で、地域の課題をワクワクに変えられるような活動をしたい。
- 地元に戻り、人に対するソフト面の地域創生支援をしたい。
- 何者かに変わる。タイミーを越す企業をつくりたい。
- 地方と東京の2拠点で起業し、伝統文化を守りたい。
- 地方で観光経営を実施。事業者・観光客・地域のそれぞれにメリットがあるビジネスモデルを広めたい。

## ■ ミーティングを終えて高際区長より

- たくさんのご意見を伺い、今まで考えていなかった新たな気づきもありました。豊島区ならではの起業・スタートアップ支援の形をしっかりと考えていきたいと思えます。
- 実際に起業するのは豊島区ではないかもしれませんが、皆さんの将来を心から応援しています。

## ■ 参加者からの感想

- 改めて起業について具体的に考えるきっかけになった。
- 現在は大学の同じゼミ生同士でビジネスプランコンテストに向けて励んでいるが、他大学の学生とチームを組み、各学生の得意分野をうまくマッチングさせながら取り組めるような機会をぜひつくってほしい。
- このミーティングのような取組があれば、また参加したいと思います。



令和7年8月 編集・発行 産業観光部産業振興課  
問い合わせ:03-4566-2746(所管課電話番号)